

生活单元学习指导计划

目 次

1. 基本的考え方	104
2. 指導計画作成にあたっての反省と改善	104
3. 小学部指導計画	105
低 学 年	106
中 学 年	119
高 学 年	132
4. 中学部指導計画	145
5. 高等部指導計画	159

1. 基本的考え方

精神発達遅滞の児童・生徒は、知的能力の劣れのため、健常児と同じ内容、方法で指導しても理解することは難しい。そこで、具体的な生活場面の中で、全部または一部の教科を合わせたり、領域を統合したりして与え、生活に役立つ生きた知識、技能、態度を身につけさせる方法のひとつとして、生活単元学習と呼ばれている指導の形態がある。

生活単元学習は、生活上の課題や問題を解決したり、処理したりするために、めあてを持って、組織的に活動させることによって、現在および将来の社会生活に必要な事ごらを具体的、総合的に学習させようとするものである。

そこで、生活単元学習では、動きを児童・生徒が自分の生活を基盤として、環境へ積極的に働きかけ、生活経験の範囲を広げることと、自発的、自主的な行動ができるように変容させて行動の質的向上をめぐることにより生活力の育成を図ることととらえた。そして、主として、次のような条件を設定した。

- ア 児童・生徒自身が、または、人からの働きかけによって興味・関心を持って活動できるものであること。
- イ 学習活動が終った時、満足感、成就感を味わえるものであること。
- ウ めあてを持って活動できるものを多くし、目的意識の乏しい児童・生徒の場合、繰り返し活動させることによって、見通しが持てるようなものであること。
- エ 活動の中で、役割分担を取り入れられるものであること。
- オ 活動を通して、現在および将来の社会生活に必要な知識、技能、態度が身につくように言語、数量など知的内容を含むものであること。
- カ 児童・生徒の発達段階に差はあっても一緒に活動できるものであること。
- キ 人とかかわりの中で活動できるものであること。

2. 指導計画作成にあつての反省と改善

昭和55年度作成の指導計画は、全体的に話し合い活動や調べる活動など、児童・生徒が受動的に活動する部分が多かったので、積極的に活動できる部分を多く取り入れるようにした。また、ほぼ一月一単元を設定し、小中高ともほとんど同じ単元で作成していたため発達段階によって活動が制約されたり、単元の消化におわれたりしていたので、ゆとりをもち、発達段階ごとに十分学習できるようにした。

そこで、次のようなことに留意して指導計画を作成することにした。

- ・ 学級、学部、学校といろいろな集団の中で活動できるようにする。
- ・ それぞれの単元ができるだけ関連し、発展するようにする。
- ・ 季節、その他の事情によってトピック単元が作れるようにする。

単元設定にあたっては、児童・生徒の立場に立ち、彼らの心情をゆさぶり、学習に喜びと学習終了時の満足感、成就感などを大事にした単元づくりを試みてみた。